

各種科学技術の進展に伴い、透析療法、とりわけそれに用いられるデバイスや装置の進歩は目まぐるしく、効率化や安全性向上、小型化や操作性向上などがはかられてきた。さらに近年は、RPA (robotic process automation) や AI (artificial intelligence), IoT (internet of things) 技術が進歩し、透析療法の管理にも取り入れられつつある。これら先端技術の進歩に伴い、近未来の透析医療はどのようなものになるか、各分野のフロントランナーと考えられる執筆者にその展望をお書きいただき、特集としてまとめた。

まず、近未来の透析医療の概要について、川西先生、本間先生に医師ならびに臨床工学技士の立場からそれぞれお書きいただいた。また山下明泰先生と山下芳久先生には近未来のダイアライザ/ダイアフィルタと透析装置の今後あるべき姿についてお書きいただき、筆者（峰島）からは個々の

患者の適正透析条件を達成すべきナビゲーション透析の可能性について言及した。小久保先生からは現在研究・開発中の災害時や急性治療に役立つ携行型血液浄化機器について詳しく説明いただいた。透析療法のハード面における近未来像について、その概要がある程度明確になってきたのではないと思われる。

後半では、AI や IoT を用いた患者管理や疾患早期診断、地域医療への取り組みを紹介いただいた。友杉先生に腎性貧血、神田先生に食事指導、豊田先生に血糖に関し、それぞれ AI を用いた管理法を執筆いただいた。林先生には AI による AKI 早期診断について紹介いただき、伊藤先生には PD 患者管理における IoT、そして風間先生には地域に対する遠隔医療について解説いただいた。

(峰島三千男, 西 慎一)

2020 年 (Vol. 36) 特集のご案内

- No.① 透析患者の感覚器障害
- No.② 透析液・透析関連排水の諸問題
- No.③ 腎代替療法と Shared Decision Making
- No.④ 世間の荒波にもまれる CKD-MBD 治療

- No.⑤ 近未来の透析医療
- No. 6 透析患者の脳血管障害
- No. 7 血液浄化機器 2020 [増刊号]

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.36 No.5

© 2020 年 5 月 10 日発行
定価：(本体 2,600 円 + 税)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2020, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) 日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY < 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構 (☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 株式会社 文栄社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541